

日本産ウミウサギガイ科(腹足綱)の分類学的研究—VII

(フネガタキヌツツミ亜属)

東 正 雄

Systematic Studies on the Recent Japanese Family Ovulidae (Gastropoda) —VII

Genus *Phenacovolva* Iredale, 1939 (*Turbovula* Cate, 1973)

Masao AZUMA

(挿図 Text-figs. 19—21a ; 図版 Plate 1)

フネガタキヌツツミ亜属を2回に分けて記述する。

Subgenus *Turbovula* Cate, 1973

フネガタキヌツツミ亜属 (和名新称)

模式: *Radius brevirostris* Schumacher, 1817

亜属の標徴: 殻の中央よりは幅広く, やや円筒形, 両端へ次第に細くなり尖る。殆ど紡錘形の貝が多い。"Turbo" とは紡錘形の意である。

歯舌: 中歯の正面観は卵円~円味の四角形で中歯尖はよく伸び1~4対の側歯尖がある。

種の検索

- 1 殻の背面中央よりうすい白横帯がある…………… 2
背面には白横帯がない…………… 6
- 2 背面全域に多くの細螺条がある……………
…*Ph. (Turbovula) gracilis* ムラクモキヌツツミ
背面の細螺条は中央よりは不明瞭となる。或は消失する…………… 3
- 3 殻はやや大きな紡錘卵形である…………… 4
殻はやや小さな紡錘卵形である…………… 5
- 4 背面中央よりの白横帯の幅は広い……………
…*Ph. (Turbovula) brevirostris* シュスツツミ
背面中央よりの白横帯の幅は狭い……………
……………*Ph. (Turbovula) fusula dancei*
ダンスキヌツツミ
- 5 外唇の周縁角にそうて黄色の線がある……………
……………*Ph. (Turbovula) weaveri pseudogracilis*
ニセムラクモキヌツツミ
外唇の周縁角にそうて黄色の線はない……………
……………*Ph. (Turbovula) fusula* フネガタキヌツツミ
- 6 背面全域に細螺条がある……………
…………… *Ph. (Turbovula) kashiwajimensis*
カシワジマキヌツツミ

嚙状部のみに細螺条がある。殻は大形で殻長35mm内外である ……………*Ph. (Turbovula) hirasei*
サチコツグチガイ

93. *Phenacovolva (Turbovula) brevirostris*
(Schumacher, 1817) シュスツツミ (黒田)
(Text-fig. 5 ; Pl. I, fig. 6)
- 1817 *Radius brevirostris* Schumacher, Essai
Nouv. Syst. Vers. Test. Copenhagen :
259
- 1865 *Ovulum spelta* ; Reeve [err.], Conch.
Icon., *Ovulum* : 7 ; plt. 10, figs. 42a, 42b
- 1881 *Ovula sowerbyana* Weinkauff, Mart. &
Chem., Syst. Conch. Cab : 202 ; plt. 51,
figs. 10, 11
- 1885 *Ovula birostris* Tryon, Man. Conch. 7 :
253 ; plt. 5
- 1885 *Ovula spelta* Tryon, Man. Conch. 7 : 253
; plt. 5, figs. 26, 27
- 1887 *Simnia sowerbyana* Paetel, Cat. Conch.
Samml. 1 : 327
- 1899 *Radius (Ovula) sowerbyana* ; Horst &
Schepman, Cat. Syst. Moll. (2) : 189
- 1941 *Volva (Phenacovolva) sowerbyana* ; Sc-
hilder, Arch. Molluskenk. 73 (2/3) : 110
- 1941 *Volva (Phenacovolva) brevirostris* ; Sc-
hilder, Arch. Molluskenk. 73 (2/3) : 110
- 1956 *Volva brevirostris*, Allan, Cowries Wo-
rld Seas : 132
- 1960 *Volva (Phenacovolva) brevirostris* (Sc-
humacher) 東, 兵庫生物. 4 (1), 51. fig. 12

歯舌

1961 *Phenacovolva sowerbyana* (Weinkauff),
波部, 統原色日本貝類図鑑, 41, pl. 19, fig.
12

1973 *Phenacovolva (Turbovula) brevisrostris*
(Schumacher), Cate, Veliger 15, Suppl-
ement, 102, fig. 230

補模式 (pl. II, fig. 22) の殻は幅広い卵形, 両端は急に狭くなって, 嘴状部は狭く強固である。背面の嘴状部の螺条は顕著であるが, 残りの背面は滑らかで光沢あり, 螺条の間隙が広くなり, 中央よりは多少不明瞭となる。殻口は幅広く, 僅かに曲る。腹面は光沢ある球卵形で, 後方には鈍い鋸歯状の滑層瘤がある。外唇は厚く, その縁は丸くうねる, 中央よりは真直で, 両端へ僅かに曲る。唇は弱く鈍い鋸歯状にうねる, 周縁角は明瞭である。殻色はバラ色がかかった灰褐色で, 背面の中央よりにはやや幅の広い白色の横帯がある。両終端は橙色である。

歯舌: 1960年の記載を次の如く補正する。中歯は丸い四角形~三角形, 中歯尖はやや伸びる。両側に1対の側歯尖がある。側歯はやや斜菱形, 基部は外後側へ細長く伸びる。前縁は大きな歯尖で内方へゆるやかに湾曲する。前縁近くの外側に2小歯尖がある。

補模式標本: 殻長 31.5 mm, 殻径 12.0 mm, 殻高 9 mm,
Cate 保管 (No. 2793)

模式産地: 不詳, Cate 次の如く選定した。フィリピンのマニラ湾 Bataan.

分布: 日本(遠州灘以南, 水深(20m~100m)); 琉球; 台湾; 中国沿岸; フィリピンの Luzon から Mindanao ; ハワイ(Maui 沖), Cook 島。

付記: 寄主, 軟体は不詳。

94. *Phenacovolva (Turbovula) weaveri pseudogracilis* Cate & Azuma, 1973

ニセムラクモキヌツツミ (和名新称)

(Text-fig. 19; Pl. I, fig. 3)

1973 *Phenacovolva (Pellasiimnia) weaveri pseudogracilis* Cate & Azuma, Veliger 15, Supplement, 101, figs. 228, 228C

模式 (Pl. I, fig. 3) の殻は中庸の大きさの紡錘卵形, 両端はやや狭く長い, 終端はとがる。背面は有光沢で, やや伸びた卵形, 丸味がある。中央よりはやや角ばって隆起している。波形の螺条が両端の嘴状部にあるが, 中央の背面には消失して滑らかとなる。腹面は狭い卵形, 滑らかで光沢がある。透明な滑層でおおわれる。その左側には橙色の線によって界している。そして中央部はよりふくれる。滑層瘤は低い明瞭な2つの瘤となる。殻軸は幅広く, 腹面の色の変る処で区切られる。軸唇窩は

ごく僅かにある。殻口は中庸の大きさの幅で, 前方は外唇の縮みによってより広い。外唇は厚く, 後方は鈍い鋸歯状となる。殻の地色は灰色がかかった白色で, その上に背面は明るい褐色でおおうが, 中央よりに輝く灰色がかかる白色の幅広い横帯がある。更に左側には暗褐色のやや幅広い縦線がある。両尖端は暗い橙褐色。外唇の周縁角の溝は黄橙色の線がある。腹面は灰色がかかった白色である。

歯舌: 中歯はやや偏圧した円形, 中歯尖はやや大きく後方へ伸びる。その両側に2対の側歯尖がある。側歯はやや大きく, アロエ葉形, 基部は外後側方へ, 僅かに伸びる。前縁の中央よりと, 先端近くに, 微小な歯尖がある。前縁端やや鋭く大きな歯尖となり, 内方へ僅かに曲る。側歯基部の中央よりは, やや浅く湾入する。

模式標本: 殻長 19.5 mm, 殻径 6.0 mm, 殻高 6.0 mm, 著者保管 (No. 15419)

模式産地: 紀伊富田沖(北緯33° 38', 東経135° 21'), 水深40~50m。

付記: 此種はムラクモキヌツツミ *Phenacovolva (Turbovula) gracilis* (A. Adams & Reeve) に酷似するが, 殻が狭く細く小形であること, 両端がゆるやかにそりかえっていること, 殻色が暗い赤褐色であること, 歯舌の中歯の側歯尖が2対であることによって区別できる。尚, 寄主, 軟体は不詳。

95. *Phenacovolva (Turbovula) gracilis*

(A. Adams & Reeve, 1848)

ムラクモキヌツツミ (黒田)

(Text-figs. 21, 21a; Pl. I, figs. 4, 5)

1848 *Ovulum gracile* A. Adams & Reeve,
Voy. Samarang, Moll. *Ovulum*, Lon-
don: 22; pl. 6, fig. 11

1859 *Birostra gracilis*; Chenu, Man. Conch.
: 273

1881 *Ovula gracilis*; Weinkauff, Mart. & Chem., Syst. Conch. Cab.: 198; pl. 50, figs. 2, 9

1941 *Volva (Phenacovolva) gracilis*; Schilder. Arch. Molluskenk. 73 (2/3): 110

1956 *Volva gracilis*; Allan, Cowries World Seas: 133

1963 *Volva (Phenacovolva) gracilis* (Adams & Reeve), 鹿間・堀越, 世界の貝, pl. 32, fig. 26; 45

1971 *Phenacovolva gracilis* (Adams & Reeve), 黒田・波部・大山, 相模湾産貝類, p. 155, pl. 24, fig. 1

1973 *Phenacovolva (Pellasisimnia) gracilis*
(A. Adams & Reeve, 1848), Cate, Veliger,
15, Supplement, 101, figs, 229, 229C

補模式 (pl. I, fig. 4) の殻はかなり大きく伸びて、
狭卵形、やや透明、両端はやや平らかで急に狭まる。終
端は僅かにそりかえる。背面は光沢弱く、多くの細螺条
が全域にある。中央よりは一層膨らんでいる。腹面も多
くの細螺条があるが、うすい滑層によって多少かくれて
いる。腹面はやや長く狭卵形、滑層瘤は狭く、ふしの螺
旋の一部のようなものである。殻口は狭く曲り、前方へ広がる。
後水管溝はやや長い。殻軸は丸く縦に急に曲る。軸唇窩は
ない。外唇縁は滑らかで狭く、中凸状で、周縁角と溝が
ある。殻の地色は乳白色、唇の周縁角の溝にそうて橙色
の線が明瞭で殻の周りをかこむ。

外唇外側のやや側面よりに、やや幅の広い不規則な
(中央よりは遮断している) 紫がかった灰色の波形の帯
がある。

歯舌: 中歯は広い楕円形、前縁の中央は僅かに凸状、
中歯尖は鋭いがあまり伸びない。その両側に1~4対
の側歯尖がある。側歯はややアロエ葉形、基部は外側後
方へ僅かに突きでる。前縁端近くに2微歯尖がある。前
縁端は歯尖となりゆるやかに内方へ僅かに曲る。内側後
方の基部はやや角状尖となる。

模式標本 (pl. I, fig. 5): 殻長 12.5 mm, 殻径 3.0 mm
内外。British Museum 保管。

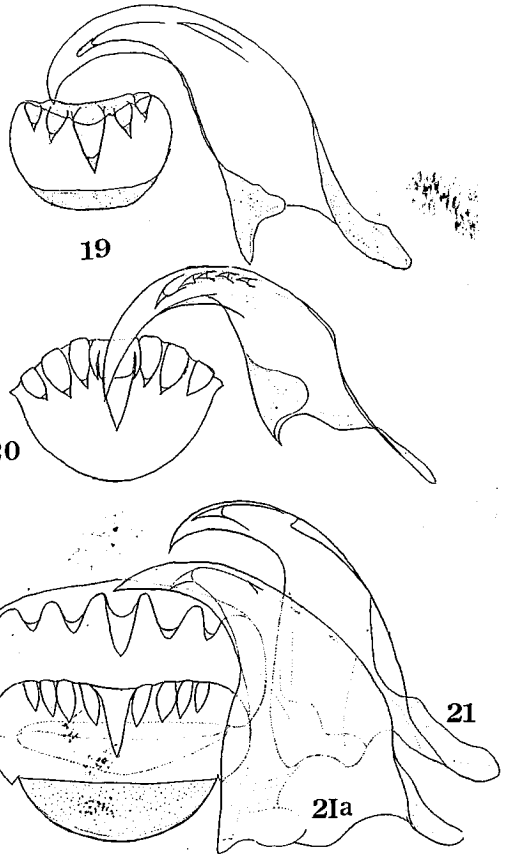
補模式標本 (pl. I, fig. 4): 殻長 25.1 mm, 殻径 6.2
mm, 殻高 4.8 mm。Cate 保管。

模式産地: “ボルネオの東海岸” 不詳の為、Cate (19-
73) 紀伊半島南部堺漁場沖, 2~3 km (水深40~50m)
(北緯33° 42', 東経135° 19') の海域と限定した。

分布: 本州 (房総半島以南)、四国、九州、フィリ
ピンの Carigara 湾レイテ島; 南ミンダナオ島 Zambo-
anga 市の沖, ボルネオ北東。

寄主: ウミカラマツ *Antipathes japonica* Brook
[Antipathidae] 上に棲む。

軟体 (Text-fig. 22) * 剖見図 (♂ 個体) 外套膜縁は淡
いピンク色である。

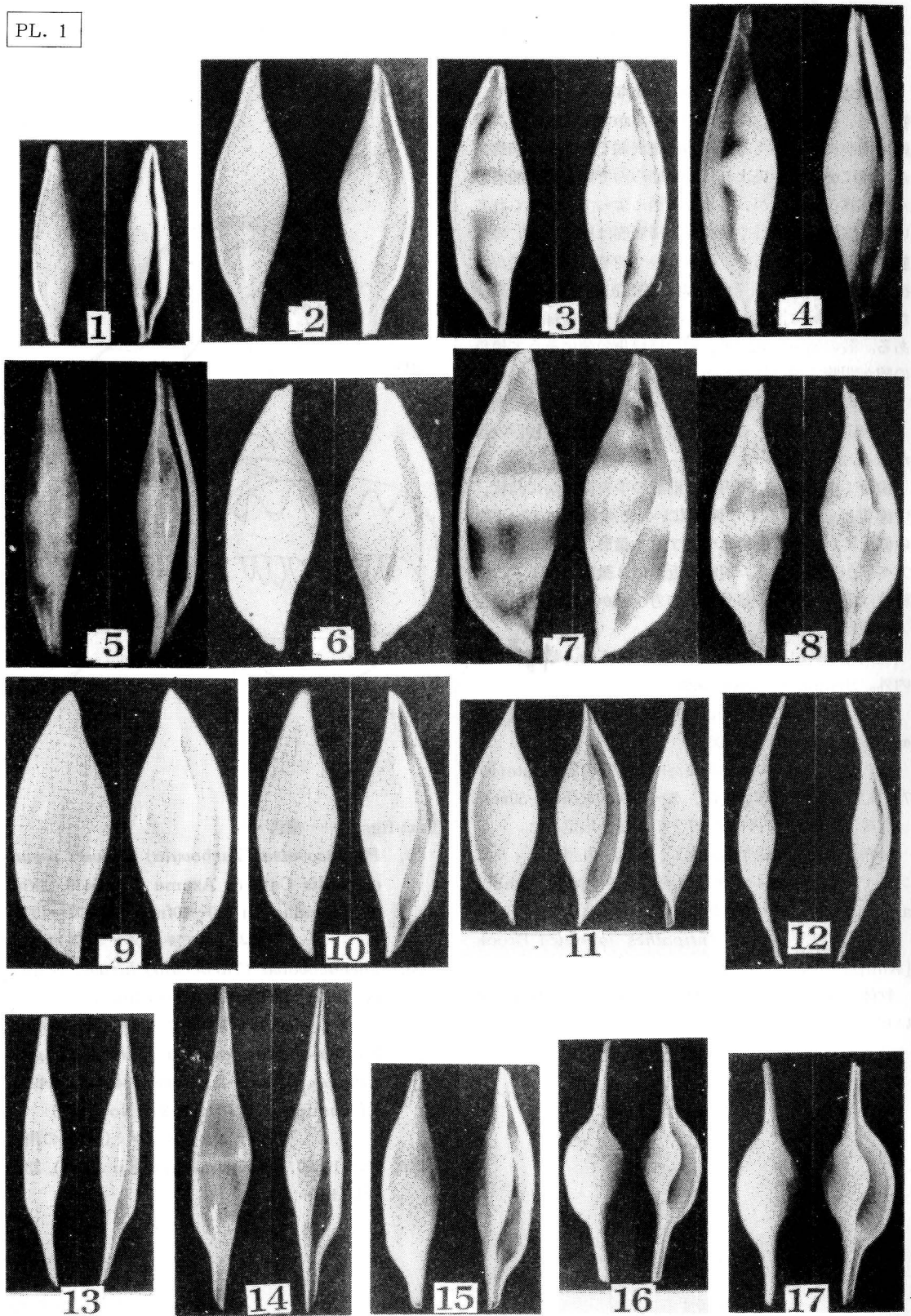


Text-figs. — 歯舌 —

- 19, *Phenacovolva (Turbovula) weaveri pseudogracilis* Cate & Azuma No.15419, 2km, off Tomida, Kii (30-40fms.) 20-XI-1970
ニセムラクモキヌツツミ (東) の歯舌
- 20, *Phenacovolva (Turbovula) hirasei* (Pilsbry, 1913) off Tosa (100-150fms.)
サチコツグチガイ (黒田) の歯舌
- 21, Radula of *Phenacovolva (Turbovula) gracilis* (A. Adams & Reeve, 1848) No.14975, off Tomida, Kii (80m), 20-Nov. 1970
ムラクモキヌツツミ (黒田) の歯舌
- 21a, No.16860, off Kirimesaki, Kii (50m), 28-Feb. 1978

* 次号に図説する。

PL. 1



- Figs. 1, *Phenacovolva (Calcarovula) birostris* (Linnaeus, 1767)
シロオビキヌヅツミ (岩川)
- 2, *Phenacovolva (Pellasmnia) rehderi* Cate, 1973
レーダーキヌヅツミ (和名新称)
- 3, *Phenacovolva (Turbovula) weaveri pseudogracilis* Cate & Azuma, 1973
ニセムラクモキヌヅツミ (和名新称)
- 4, *Phenacovolva (Turbovula) gracilis* (A. Adams & Reeve, 1848)
(hypotype) ムラクモキヌヅツミ (黒田)
- 5, *Phenacovolva (Turbovula) gracilis* (A. Adams & Reeve, 1848)
(holotype) ムラクモキヌヅツミ (黒田)
- 6, *Phenacovolva (Turbovula) brevirostris* (Schumacher, 1817)
シュスヅツミ (黒田)
- 7, *Phenacovolva (Turbovula) fusula* Cate & Azuma, 1973
フネガタキヌヅツミ (和名新称)
- 8, *Phenacovolva (Turbovula) fusula dancei* Cate, 1973
ダンスキヌヅツミ (和名新称)
- 9, *Phenacovolva (Turbovula) hirasei* (Pilsbry, 1913)
サチコツグチガイ (黒田)
- 10, *Phenacovolva (Turbovula) kashiwajimensis* Cate & Azuma, 1973
カシワジマキヌヅツミ (和名新称)
- 11, *Takasagovolva honkakujiana* (Kuroda, 1928)
ホンカクジヒガイ (黒田)
- 12, *Phenacovolva (Calcarovula) longirostrata* (Sowerby, 1828)
ツリフネキヌヅツミ (目八会)
- 13, *Nipponovolva wakayamensis* (Cate & Azuma, 1973)
(gen. nov.) ワカヤマキヌヅツミ (和名新称)
- 14, *Phenacovolva (Calcarovula) tokioi* Cate, 1973
シカマキヌヅツミ (和名新称)
- 15, *Phenacovolva (Calcarovula) rosea rosea* (A. Adams, 1854)
ベニキヌヅツミ (平瀬)
- 16, *Volva volva volva* (Linnaeus, 1758)
ツマベニヒガイ (大山)
- 17, *Volva volva habei* Oyama, 1961
ヒガイ (丹浦)